


コスモピア公和苑

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		個人の尊重を大切にし、家庭的な環境の中で、家族としてのお世話をすることを基本理念においている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		グループホームの倫理綱領を玄関・事務室・食堂・トイレに掲げ、また個人で携帯し、毎朝職員と唱和している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		家族や地域の人々に理解してもらえよう、地域の行事や祭りやボランティア活動を積極的に取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		日常的にご近所の豆腐やさんに豆乳を配達して頂いたり、野菜などおすそ分けしていただいたり交流をふかめている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		苑主催の夏祭りに地域の方に露店のボランティアや会場の準備など協力して頂いたり盆踊りの参加していただいている。又、地区の運動会や敬老会、秋祭りなどの行事に声をかけていただき、参加させていただいている。

コスモピア公和苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	一本松区の区長さんや民生委員が常に気にかけてくださり、困ったことがあると、すぐに相談に応じてくれる。また、地域の行事など声をかけていただき、参加について話し合いを設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をし、去年の外部評価の指摘された項目を改善するよう会議を設け取り組みを決めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見などを取り入れ、苑内外行事・地域の行事参加など、話し合いサービスの向上を目指している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	香春町商工会と田川市商工会に入会し、地域の公園の清掃や菖蒲栽培などの活動に参加させていただきながら、市町村担当者の方々との交流を深めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族に書面をもって理解していただけるように、説明し、納得していただいている。また必要な人には支援をするように伝えています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームの倫理綱領の項目中に掲げ、暴力や虐待および身体的精神的拘束を行わない、見過ごさないよう注意を払っている。		

コスモピア公和苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結んだりするとき、家族が納得いくまで、説明をし、利用者になれていただけるよう体験入所をしたりして工夫している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>食事や行きたい場所など利用者の意見など取り入れるよう月に一度のミーティングで話し合っている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者の健康状態の報告は密にとっている。また預かっているお小遣いは最低月に一度確認していただき、サインしてもらっている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関前に家族が気軽に意見や苦情・相談出来るように苦情・相談・助言受付箱を設置している。また、苦情などがあればそのつどミーティングを行い、問題点や対応策などを話を合っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常の朝礼での意見などはもちろん、おおむね月に1度全体ミーティングを行い、サービスの改善や向上にむけて話し合っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>苑行事や、地域での活動のときには、職員体制を多くし、勤務体制を調節している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員同士の人間関係を大事にし、働きやすい職場を目指しているため、あまり異動や離職がなく、利用者への精神的ダメージは少ない。</p>		

コスモピア公和苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。職員の勤務年数も長く皆仲がよく理解し合っている。常に入居者のケアについて情報交換もされている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>入所者の尊厳を守ることを理念に揚げ、「ありがとうと言えるところ10か条」の心構えを掲げ目標としている。人権教育・啓発活動に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症介護実務者研修基礎課程受講者は4名。社会福祉協議会等の研修にも積極的に参加をしている。また、月に1回のペースで苑内研修として、勉強会も行っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>田川グループホーム連絡会の会員であり、同業者の交流は常におこなっている。夏祭りや田川市のボランティア活動などお互い協力しあったり、情報交換など、勉強会にとりくんでいる。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレスを軽減するために職員個人の悩みごとや相談をうけたり、働きやすい職場作りを目指している。また忘年会や夏祭りの打ち上げなど、食事会の機会を設けている。</p>		

コスモピア公和苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や実績などを把握し、担当や責任を持たせ各自が向上心を持って働けるように、努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に他の入居者や職員とのコミュニケーションの場を設け、一緒にレクリレーションを行ないながら、ご本人の不安や要望などを聞き入れる努力などを行なっている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接御家族にアセスメントや過去の経歴・在宅時の趣味などの情報収集を行い、入所後も御家族の希望や不安ごとなども聞く機会を設け時間をかけながら、相談されやすいように、会話のトーンや目線、相槌などにも注意している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時、ご本人や家族の今の現状や今後の対応について話し合い、今現在のご本人の状態が在宅支援サービスを受け入れながら、在宅生活が保てるのか、または、このまま(在宅支援)の状態が難しい段階なのか、あらゆる角度での支援の方法を話し合うようにしている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初回面談のときに入所に関して不安などある方はまず体験入所や、昼間などに気軽に遊びにきてもらうことを勧め、他の入居者や場の雰囲気に馴染めるようにレクリレーションをおこないまた、家族に相談しながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入所されると家族と考え、出来ることは一緒に行っている。レクリレーション等も含め、職員も利用者と一緒に楽しみながら、またお互いに相談に乗る等して、助け合い、支え合っている。		

コスモピア公和苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族と共に利用者の事を第一に考え今後のケアの内容など、一緒に考え、気軽に相談できるような関係を築く努力をしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所者が御家族を忘れないように部屋に家族の写真を貼ったり、御家族が入所者と疎遠にならないように橋渡しをしている。また公和苑での行事などに声をかけるなどして、ご家族に参加していただき、利用者と共に楽しく過ごしていただけるように、支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔過ごした地域にドライブに出かけたり、馴染みの商店街等に買い物に行ったりして関係が途切れないよう、支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入所者の言葉や言葉にしづらい思いを顔の表情などで汲み取るよう努力し、利用者同士が良い関係が築けるようレクレーション等を行い利用者同士が良い関係を築けるように支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、入院時は面会に行くとか、夏祭りなどの行事は案内をして、いい関係が出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者の希望や意見を踏まえ、入所者一人一人の特徴を踏まえた具体的な介護計画等を立てる様に努力している。また入所者が認知症など困難な場合は、本人本位に検討しているが、家族の意見や希望等をとりいれ検討している。		

コスモピア公和苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や苦労話、若い時代の生活などその人に合わせ、サービス利用して、楽しい苑生活を援助している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全員、何らかの病気治療中であるため、バイタルサインの強化、専門職としての観察、活気、顔の表情など、全員で取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画をたてるため、初回面談時はもちろん、本人と御家族の方々と話し合い、今後の課題や意見等を取り入れるよう介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示して、期間が終了する時見直しを行っている。また入院などにより状態変化が生じた場合は、話し合いにより随時見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状態や変化を、日々、個別に介護記録に明記し、情報を共有して、実践等に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、家族に代わって本人と一緒に墓参りや住所地の区費などを納めたり、なるべく本人の希望に添えるよう支援している。		

コスモピア公和苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の区長の協力で運動会や盆踊り大会に参加している。町の広報で田川地域の広報を知り、ドライブを兼ね、見学、参加している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性は出来る限りプランとして取り組んでいる。また訪問歯科のケアマネジャーと話し合い、口腔ケアなどの居宅管理指導を受けている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員の方に訪問していただき、入所者のケアマネジメント等、相談している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医に診てもらっている人が多い。定期的受診や他の疾患は、その都度ご家族と連絡。受診の時は職員が付き添う。週に1度往診も受けている。また、休日、夜間にも対応していただけるよう、医療機関の協力を得ている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所時の医療機関に継続治療中の人が多い。不眠、徘徊、異常行動など常に指導を受けている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度、訪問看護の看護師が来苑。毎回同じ看護師の為に、利用者も職員も馴染みがあり、気軽に相談が出来る。健康管理等に看護師の意見を常に反映させ、取り入れている。		

コスモピア公和苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、寂しい思いをさせないよう、面会、食事介助を行い、元気付け、初めの診断よりいつも早い退院ができています。面会時には、医師、看護師等と話し合い、情報交換を行っている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階からご家族をまじえ、主治医に相談し、情報交換を得ている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、訪問看護や往診診療などと連携し、支援できる体制を整えている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院時のケースが多いが、ご家族との話し合いは何度も行い、ダメージを防ぐことに勤めている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアの中で入所者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねるものになっていないか、話し合いをしながら介護をおこなっている。優しい言葉や声かけが何よりの良薬と考え、実行している。		

コスモピア公和苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人一人が自分で決めたり、希望を表したりする事を大切にし、それらを促す取り組みを日常的に送っている。 (ドライブや買い物、外食時のメニュー選び等)		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望に添って、その人がしたいようにしてもらい、団体行動への無理矢理の参加を促すことはしない心がけをしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に来苑、個人にあったカット等して下さる理容師さんを依頼している。また、本人や御家族の希望で他の店が良い場合は、その店まで送迎等行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゴボウの笹掻き、ジャガイモの皮むき等、利用者が出来そうなことを判断し、一緒に準備している。また食事の後片づけでは食器を下げたり、洗う等、出来る人にはしてもらっている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む飲食物は、希望に合わせて購入。一人一人の状況に応じ、日常的に楽しめるよう支援している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけ紙おむつや紙パンツの使用を減らすよう、日中は一人一人の排泄パターンを把握。声かけにてトイレ誘導し、気持ちよく排泄・生活出来るよう支援している。		

コスモピア公和苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応曜日は決めているが(月火金土)、利用者の希望でいつでも入浴できるようにしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者個々の睡眠パターンを把握。夜間安心して眠れるよう、日中の生活リズムを整えるように努力している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	苑内で利用者一人一人が楽しみごとや出番を見いだせるよう、場面作り等の支援を行っている。(テレビ番組の決定・食器洗い・掃除・洗濯物たたみ等)		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理が出来る人には、所持したり、いつでも使えるよう支援している。管理できない人は苑で預かり、入用事に渡すようにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に行きたい、お詣りに行きたい等、一人一人の要望に添えるよう、努めている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者一人一人に希望を聞き、行ってみたい場所に他の利用者とドライブで一緒に出かけられる機会を作り支援している。		

コスモピア公和苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、県内はもちろん、北海道や韓国への電話の取り次ぎや、手紙のやりとりの支援をしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族だけでなく、知人、友人等気軽に訪問できるように、スタッフ全員笑顔で接する様にしている。(コーヒー・お茶・お菓子で接待)		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全てのスタッフが禁止の対象となる行為を理解し、身体的拘束を行わないという事を前提にしたケアに取り組んでいる。また、談話室、事務所等に身体拘束に関わるマニュアルを掲示し、いつでも読めるようにしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のチャイムに注意し、必ず確認する週間をつけるようにしている。いつでもドアが開く事で、利用者の皆さんに安心感を与えようと思う。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間を通し、利用者の所在や様子を把握。安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	以前は危険でなかった物品が、認知症進行のため危険だと判断したとき、それらを預かる等の取り組みをしている。(はさみ・かみそり等)		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人の現状を把握し、各々の事故防止の為、毎日の朝礼で報告、話し合っている。また、談話室、事務所等に災害時行動マニュアルを掲示し、いつでも読めるようにしている。		

コスモピア公和苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを整備し、救急救命の訓練にも定期的に参加。全スタッフが的確に対応出来るように取り組んでいる。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防士の指導の元、消火、避難、救出の訓練を行っている。又、スタッフの緊急連絡体制も整っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	御家族には常に電話連絡し、各々のリスクについて説明。又来苑時には本人の現状を見ていただき、対応策を話し合うようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変があった場合には、緊急を要する以外、御家族に相談し、受診する等、健康面での支援をしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の表を作り、朝昼夕の投薬スタッフの名前を記入、責任を持った服薬支援を行っている。全スタッフが症状の変化の確認に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	全利用者の排便状況一覧表を作成し、個人の排便状況を把握。排便困難者に対しては医療機関と連携をとったり、ミーティング等で対応策を話し合い、実行している。		

コスモピア公和苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きを実行。自分で出来ない人は、スタッフが手伝い、実施している。(夜間は義歯を預かり、ポリドントで除菌)また、週1度訪問歯科による口腔ケアをお願いしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量一覧表を作り記録。摂取量の少ない人に対しては、栄養缶や栄養ジュースで補給。水分量も確保出来るように支援している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、実行している。マニュアルは掲示し、いつでも読めるようにしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のため、調理道具の消毒、調理担当スタッフの手指の衛生に心掛けている。又、新鮮で安全な食材を使用し、管理するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰でもいつでも出入り出来るように、玄関は開放。苑庭には季節に応じた花や野菜があり、又、利用者や他の人がいつでも座れる椅子も設置している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫	共用の空間は利用者にとってホッと出来る空間である。季節に応じた花や写真、みんなで作った作品等を飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。		

コスモピア公和苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなが集まる談話室は、特に席の指定はしていないが、毎日座る場所がほとんど決まっている。気の合った人の隣に座り、会話したり、居眠りやポーっと過ごせるよう、ソファの位置の工夫をしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は今まで使い慣れたタンス、ベッド、座椅子等を持参していただき、居心地良く生活してもらえるように配慮している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後は部屋の窓を開け、換気に努める。日中自室に戻れるときは、季節に応じ暖房、冷房で温度を調節している。また、廊下や談話室に空気清浄機を設置し、気になるにおい等が無いようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、廊下、談話室、食堂、トイレ、浴室は全て段差のないバリアフリーになっている。又、手すり等を利用し、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや自室の前(本人の顔写真等)に、目印になる物をつけ、利用者一人一人が場所の間違いや分からない事での混乱を防ぐための工夫をしている。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りにはベンチを置き、日光浴や会話、歌等で楽しんでもらえるように支援している。季節に応じた花や野菜を育て、それも楽しんでいただいている。		

コスモピア公和苑

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

コスモピア公和苑

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

公和苑が日々力をいれて取り組んでいることは、毎日のリハビリレクリエーションです。下肢筋力を補うため、苑内歩行や平行棒、また上腕筋等を鍛えるため、滑車、握力グリップ等、歩行困難な利用者は車椅子自走訓練等、利用者同士がリハビリをがんばれるように、リハビリ表を作成し、リハビリ項目を達成したら、シールを貼るなどして、競い合い、それを三ヶ月ごとに集計し表彰状を授与しています。リハビリを毎日行うことで転倒防止にもなりますし、意欲的に頑張るようになりました。今後もリハビリに力を入れて頑張っていきたいです。